

近所散策と

東京散策

上村 慶次

四十年近く続けたサラリーマン生活に終止符を打って、やがて三年が過ぎようとしている。

退職した当初は、毎日が自由な時間ということに大いなる戸惑いがあったのだが、今ではその豊富な自由時間を持って余すこともなく上手く使っている。

サラリーマン時代は、大方は会社と家との往復であった。休日の時折はどこかへ行くと言っても、長時間であることはなかった。時間に余裕がある時といっても、せいぜいは三連休あたりまでのことであるから落着くものではなかったのだ。

ところが、今ではその自由な時間が豊富にあるから長期間を出歩くことも大いに可能であり、これはよい。

趣味で所属している文芸の結社が東京を拠点としている関係もあり、サラリーマン時代よりは上京することがたびたびとなった。かつては、土曜日の朝上京して日曜日の夜に戻ることを繰り返していたが、今ではその前後の日々を東京で過ごすことが日課になっている。

自称して「遅ればせながらの御上りさん」という。無論、数ある地方都市もその土地土地での良さを思いつし、東京礼賛のつもりは毛頭無いが、東京の面白さは良くいえば幅が広いあるいは奥行きがあるとでもいおうか。言ってしまうと、その落差の激しいことにある。これが、どつしよつもなく面白いのだ。

銀座を歩いての通りの店で、その値札の0の桁数に驚くのも一興であり、また浅草で一杯ん百円の酒を飲むのもこれまた一興であろう。

東京といえは、この頃ではすぐ新丸ビルや六本木ヒルズ、汐留などなどの観光スポットが云々されるが、まだまだ捨

てたものではなく面白いのは下町と称されるところであろう。ここにはまだ人情が残っているところがある。

リフォームの相談は ファビルス

お問い合わせは4314611へ

先日上京の際に、江東区砂町を訪ねた。この町にはある有名な俳人が戦後しばらくの四季を暮らしたところでもあり、その俳人の記念館ができたというので訪ねてみた。その俳人の著書にも出てくる砂町銀座というのも歩いてみたが、今日でも道を問えば親身になって教えてくれるなどなど、これぞという庶民の生活を感じさせる嬉しいところであった。

そのよつな東京も良いが、これまた良いのが近所である。東京にも四季はあるが、それ以上に自然のある四季が近所にはある。

家と会社とをただ往復していた頃は、朝は女房の車で最寄りの西鉄の駅まで行き、帰りの時間はもう暗くて自然があるとするれば最寄りの西鉄バ

ス停からの月と星や夜気くらいなものであり、休日は休養を取ると称しては家にごろごろ。

それが今では違う。自由な時間をゆっくりと歩くことになる。我が家の近所も自然の宝庫なのだ。つまり、俳句という季語の宝庫なのである。花草木は無数のこと、昆虫に鳥に小動物。我が家からバス停までの二三分を歩く間に、そして狭い我が家の庭にも彼らは咲きまたやってくる。

この四季には梅、水仙、椿、千両、万両、葉牡丹などが咲き、寒雀や鴉がくる。春には桜、紫荊、躑躅、木蓮、鶯、雲雀、燕など、夏には薔薇、牡丹、紫陽花、茉莉花、夾竹桃、蠅虎、雨蛙、蟻、蜥蜴、蛇、白鷺、目白など。秋には木犀、芙蓉、橙、蜻蛉、ちちろ虫、蟪蛄、鴉、ひよなどどあげていけば枚数にいとまがない。気になっていながらも、この自然を見落としていたことに大いなる反省をもって、これからはこの身近にある自然をじっと見つめていこうと思

っている。

東京の近代的な生活というものにはさて置くこととして、東京にある自然と近所との自然が大きく変わっているということがあるまい。東京の下町に残っている自然と、近所の自然とを時によって比べ味わいながら、これからもずっと長く暮らしていこうと思っている。

散策する心は、例えどこの土地を歩いても変わることはないであろうから。筆者は(株)西広OB

創業大正15年
郷土料理
Japanese Restaurant
福岡市博多区中洲5丁目3-16 ☎(291) 6331
営業時間 午前11時半~午後10時

沖繩リポート④

自衛隊イラク派遣

小嶺 幸 男

日本は1月に自衛隊をイラクへ派遣しました。

国民は何が何だか分からないままの派遣でした。自衛隊を先ず丸投げし、それから政府の説明と云うか言い訳です。曰く、イラクの南部サマワで給水、医療、施設復旧などの人道復興支援活動を行うためだと。また、現地の要望を入れて雇用を創出する云々。日本国民への説明をせず何故急ぐ派遣なのか納得出来ません。

自衛隊の戦闘状態が続く外国への派遣は初めてのこと。しかも派遣は国会承認に先立って行われています。国会でも与党による強行採決。野党はぶいど欠席し全面対決のポーズです。政府はアメリカに遅れるなど言わんばかり。日本は一九九一年の湾岸戦争

争では多額の資金援助協力をしながら、アメリカから評価されなかったテツを踏むまいと必死のようです。

今回の日本の自衛隊派兵は、アメリカから「ブーツ・オン・ザ・グラウンド(地上兵力を)」とあからさまに要求されたからだったとか。フタを開ければ英国、オーストラリアに次ぐ早さです。

沖繩では、すぐさま自衛隊派遣に抗議する平和団体や労組が航空自衛隊那覇基地前などで集会を開きました。イラク派遣の輸送機は次々と那覇空港から離陸します。

混沌としたイラクの泥沼化は、かつてのベトナム戦争のようになんて続くでしょう。部

リフォームの「相談はファビルス
お問い合わせは414611へ

族間の対立も深刻だとか。自爆テロも後を絶ちません。

私は、私ごとで恐縮ですが盲腸の手術を受けたばかりです。町に出て、自衛隊派遣に抗議する若者たちの行動を直接見ることはしません。マスコミ

ミの報道に接するだけです。私は、若い時分に労働組合や復帰運動に燃えていたものです。今、思い出さずにはいられません。

沖繩は太平洋戦争では唯一地上戦を体験しました。沖繩戦と言われる所以です。本土は、そつした沖繩を切り捨てて講和条約を結び連合国の占領から独立したのです。

私たち沖繩の若者は祖国復帰運動では健気にも日の丸を掲げ、日の丸の鉢巻きをして行ったものです。

私たちの行動理念は日本国憲法、平和憲法に帰ることです。当時の沖繩は、アメリカ軍の司令官が高等弁務官として旧憲法に於ける天皇のよう

に存在する社会でした。沖繩戦を制したアメリカ軍がそのまま占領統治するオキナワにあっては、住民には将来の夢が持てません。終戦直後の本土の都会でも数年間は連合軍の占領下にありました

ので、お年寄りには経験があまりの方も多いでしょう。私は祖国復帰を目前にして、

日本政府の代表を睨みつけました。オキナワの住民の夢が叶い祖国復帰を果たそうとする、その時にです。

沖繩の米軍基地はそのままに一九七二年に、祖国復帰をするといつのです。基地の態様を変えずに施政権を返還すると言つのです。

冗談じゃない。若者たちは日の丸を捨てて赤旗を振り回しました。核兵器を保有したまま米軍基地はそのままに沖繩を返還するといつのです。これは本土の沖繩化を意味します。

イラクへの自衛隊派遣は、比較的治安のよい南部の地方都市サマワだから問題はないのではないでしょう。政府は混迷が続くであろうイラクでの被害者、殉職者は英雄に祭り上げようとしているのではないでしょうか。

イラク支援に向かう日本に対してイラクの市民は、大きな期待を寄せるでしょう。同時に、タリバンやアルカイダなどの武装集団からはテロの標的とされるかも知れぬことを忘れてはならないでしょう。

アメリカは日本に対して自衛隊派遣のように目に見える形でのイラク支援を期待します。アメリカでは軍産共同体のタカ派とネオコン(新保守勢力)が勢いを得ています。戦争の継続は軍需産業を潤し、ブッシュ政権は秋の大統領選を睨んでいるのです。

日本は浮かれていてはなりません。平和憲法が存在します。派遣を決めたのなら、撤退する勇気をも併せ持つべきでしょう。筆者は那覇市在住。詩人

財団法人
黒田奨学会
福岡市中央区大名2-2-41-308